

プラスチック用添加剤の作用機構と使い方

◆日時: 2025年12月15日(月) 10:30~16:30

◆会場: 【WEB限定セミナー】※在宅、会社にながらセミナーを受けられます

◆聴講料: 1名につき55,000円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申し込みされた場合、1名につき**49,500円(税込)**・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で55,000円(税込))**

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師: 山形大学 グリーンマテリアル成形加工研究センター 産学連携教授 博士(理学) 小林 豊 氏

高分子科学の入門書には、添加剤の説明はほとんど書かれていません。しかし、現実のプラスチックには必ず添加剤が使われています。この講座では、すべての添加剤を紹介します。そして、その添加剤が機能を発揮する理由を高分子の特性と併せて説明します。人間もプラスチックも同様で、複数の薬を併用するときには、十分に注意しないと、適切な効果が得られません。このように使い方についても、説明します。

1. 序章

- 1.1 ポリプロピレンを安定化させる添加剤
- 1.2 ポリプロピレンに機能を付与する添加剤
- 1.3 ポリプロピレンと添加剤との関係

2. 添加剤各論

- 2.1 酸化防止剤
- 2.2 光安定剤
- 2.3 中和剤
- 2.4 分散剤
- 2.5 アンチブロッキング剤
- 2.6 滑剤、スリッパ剤
- 2.7 アンチフォギング剤 防曇剤 超親水コート
- 2.8 帯電防止剤
- 2.9 抗菌剤
- 2.10 難燃剤
- 2.11 化学発泡剤
- 2.12 架橋剤、分解剤
- 2.13 色材

2.14 蛍光増白剤

2.15 フィラー強化材、カップリング剤

2.16 造核剤

3. 添加剤の分析方法

3.1 前処理

3.2 定性分析

3.3 定量分析

4. 高分子と添加剤の物理と化学

4.1 劣化における化学変化: 分子鎖の切断と酸化

4.2 劣化における高分子と添加剤との関係

4.3 ポリマーの化学構造 極性について

4.4 ポリマーの相転移と緩和

4.5 溶解度と拡散

4.6 色の見え方 特に粒径と光の方向

5. 応用

5.1 添加剤と添加剤の相互作用(拮抗作用)

5.2 トラブル事例

5.3 物理劣化と添加剤について

『プラスチック用添加剤【WEBセミナー】』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

☐ Eメール ☐ 郵送

● Webセミナーの受講申込みにについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして、別途視聴用のURLをメールにお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>